

<Eメールアドレス>

i-net@mail2.ibaraki-np.co.jp

◇身近な情報をお寄せください

総合

笠間焼登り窯

大学生が修理ボランティア

東日本大震災で損壊した笠間焼登り窯を復活させようと、若狭学園高出身の学生らが修理ボランティアに励んでいる。同高出身者らによる有志団体が、9月から奥田製陶所(笠間市下市毛)で登り窯復興の手伝いを開始。震災を契機に今まで関心が低かった郷土の文化財産を見直し、「伝統ある登り窯が動いている姿を見てみたい」と作業に力を込めている。

ボランティアを行って、ジック(JM)。音楽のイ、同活動を支援するNいるのは、同高出身の学、ベント企画・運営を行、収益の25%以上を社生らでつくる「ピー・コネ、会貢献に役立てる団体クテッド・ウィズ・ミュー、同し、今年5月にメンバ



奥田製陶所の登り窯修理を手伝う大学生ボランティア＝笠間市下市毛

19人で結成した。

代表を務める流通経大1年の中山佳樹さん(20)は「音楽も好きだけど、社会貢献を活動の中心にしよう」と思って立ち上げた。最初は被災した東北地域の子どもの県内観光地に招待する案を進め、7月に笠間市を訪問。陶芸教室を実施している奥田製陶所を訪ねたところ、築200年の5段登り窯が無残に壊れ、片付けも修理も進んでいない状況を目の当たりにした。

「(窯)を直すことが社

郷土文化知る契機にも

会貢献になるんじゃないか」と話し合い、活動内容を「登り窯復興」に変更。8月下旬に都内でライブイベントを開き、収益の全額10万円を窯の材料費として同製陶所に寄付するとともに、「修理を手伝わせてください」と申し出た。

「(窯)まで本気なのか」と最初は思っていた。同製陶所の奥田達雄さん(62)は、学生らの真意を測りかねていたという。活動は震災半年後の9月11日から始まり、週末を中心に午前午後1日ばかりで行われた。レンガの撤去、モルタルがし、くず掃除。大学生らは黙々と作業をこなし、手伝う友人も日替わりで集めた。奥田さんは「彼らがいることで、一人でやる何十倍も作業がはかどった。地味なことを気持ちよくやってく

れるからうれしい」。気付けば学生からは「達雄さん」と呼ばれ、奥田さんも自然に下の名前を返すようになった。

参加する大学生はほとんどが県内出身。それでも笠間市は身近な存在でなく、代表の中山さんは「僕はつくば市出身だけど、今回初めて笠間市にきた。こんな立派な窯があったなんて、もっと早く知れたかった」と話す。震災が郷土に目を向けるきっかけとなった。尚美学園大1年の森田すばるさん(18)は「今はこの窯に火が入り、どんな作品ができるかを見るのが大きな楽しみ」と目を輝かせる。

ボランティアは当面続けられ、年内いっぱい修復完了を目指す。同製陶所の登り窯は震災から1年後の来年3月11日、笠間焼復興イベントで大々的に使用する計画もあり、中山さんは「何としても、この登り窯を完全復活させたい」と誓った。(松本隆吾)

JR水戸が乗客救出

JR水戸支社は9月29日、水戸市三湯町の車庫で、地震などで駅間に停車した列車から乗客を救出した。想定した訓練に社員ら約1



震災写真35点 成大図書館で展示

東日本大震災で大きけた県内各地で、茨城が撮影した報道写真を日本大震災報道写真展から、水戸市文京の茨城で開かれる。13日まで写真展では、地震や大きな被害を受けた北洗町、液状化により住いた潮来市や稲敷市をはじめ、被災者の悲し1原発事故の影響、復

花のコンクールで賞状やメダルを受ける金賞受賞者＝水戸市五軒町の水戸芸術館

▽銅賞 木村七緒(緑岡) 華(吉田) 銀賞 小園江(3年の部) 金賞 木村優香(第五) 遠藤由佳(第五) 堀大志(茨歩(五軒) 吉田達哉(緑) 下野直也(茨)